



この情報紙は共同募金の助成を受けて作製しています



## 見て、触れて、聞いて、 体験を通して考える

春山小学校4年生  
福祉体験学習



フェニックスプラザ内の  
バリアフリー設備を見学

市社協ボランティアセンターでは、高齢者や障がい者の擬似体験や当事者のお話を通して福祉への理解を深め、自分たちに何ができるのかを考えてもらうための福祉教育を推進しています。

6月29日(木)、春山小学校4年生53名が、福祉体験学習を行いました。はじめに、音声案内や点字案内板等に実際に触れるなど、バリアフリー設備について学んだ後、2クラスに分かれ、車いす体験とガイドヘルプ体験を行いました。

普段の生活では「こっちに来て」「もう少し進んで」など、抽象的な言葉を使って話すことが多いと言っていた子どもたちですが、今回の体験では「左に柱があるよ」「あと5歩進んで」などの具体的な言葉での声かけを意識しました。車いすや白杖に初めて触れる児童も多く、戸惑う姿も見られましたが、それぞれの体験を通して、人を思いやる気持ちを学んでいました。体験を進めていると、子どもたちの表情が徐々に、優しい表情へと変化していきました。

### 感想

☆身体の不自由さがあっても自分たちと同じ暮らしをしているので、障がいをもっている人が悲しくなることはないようにしたいです。

☆お手伝いの仕方がよく分かったので、目の見えない方や車いすの方が困っていたら、声をかけてお手伝いできればいいなと思いました。

☆多目的トイレを初めて知りました。知ることができて良かったです。